加入国際学術団体に関する調査票

1　国際学術団体活動状況（内規第 11 条　活動報告）

<table>
<tr><td rowspan="3">団体名</td><td>和</td><td>アジア社会科学研究評議会連盟</td></tr>
<tr><td>英</td><td>Association of Asian Social Science Research Councils
（略　称　AASSREC）</td></tr>
<tr><td>団体 HP（URL）</td><td>http://www.aassrec.org
（日本学術会議が加盟していることの記載　有　）</td></tr>
<tr><td colspan="2">国際学術団体における最近のトピック
（学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等）</td><td>AASSREC は 1973 年５月に、アジアにおける社会科学の発展促進を目的として設立された組織で、現在はオセアニアを含むアジア・太平洋地域主要国の各国代表が、社会科学の諸分野を横断する country paper を提出のうえ議論を深める大会を隔年で開催している。同連盟は International Science Council（国際学術会議）にも加入しており、アジア太平洋地域の社会科学を代表する組織である。
設立準備段階で支援を受けた UNESCO とは今も協力関係にあり、2022 年６月 23 日に は AASSREC を含むアジア・太平洋地域の非営利組織パートナーとの会議が開催され、今後の協力関係の枠組について議論した。その結果、UNESCO「社会変容のマネジメント」（MOST）プログラムの一環として、UNESCO と AASSREC は共同で、インド太平洋地域における人文社会科学のリサーチ・アジェンダを討議するワークショップを開催することを決定した。そのキックオフ・ミーティングは 2024 年 5 月 8 日にバンコク（タイ）で開催され、両者のリサーチ・アジェンダをいかにハーモナイズさせるか等について、ハイレベルにおける議論がなされたところである。
AASSREC の活動は、従前は上述した大会が中心だったが、ラウンドテーブルやウェビナーを定期的に実施することになった。日本学術会議は AASSREC 加盟団体としてその企画・立案や発表者の推薦に関わっている。
加えて、いくつかの野心的なプロジェクトが開始・進行されている。ここでは 2 つの例を挙げる。
●「Asia-Pacific Social Sciences Journal Directory」プロジェクト：AASSREC 加盟団体を含む域内の社会科学者の便宜に供するため、ハイランク・ジャーナル（査読付き）の検索可能なディレクトリを作成して連盟ウェブサイト上で公開する。
●「Boosting Social Sciences and their Contribution to Better Lives across the Indo-Pacific」プロジェクト：国際開発研究センターの資金援助を受け、社会科学の現状のマッピング、戦略的研究助成資金を通じた重要な研究イニシアティヴの支援、地域的な協力の強化などを進めることにより、社会的課題に取組むうえで社会科学が果たしうる役割について、インド太平洋地域で永続的なネットワークを創出することを試みる。</td></tr>
</table>

当該国際学術団体が対応する分野において学術の進歩に貢献した事例	大会では、グローバル化と多文化社会、災害、高齢化、都市化、環境、サステナビリティといった今日的テーマを取り上げ、アジア太平洋地域における様々な課題解決に資する議論を進めてきた。 直近の第 25 回大会（2023 年 6 月）では、ASSREC 設立 50 周年を記念して、アジアにおける社会科学の過去、現状、そして今後の展望について議論された。
政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等	第 24 回大会（2021 年 10 月）は「Navigating the future with and after Covid-19: The role of social sciences in Asia」を統一テーマに、①国際関係、②アジア太平洋地域における対応、③公衆衛生、④Covid-19 が社会の諸側面にもたらした変化、⑤パンデミックと社会科学の５つのセッションで議論を交わし、新型コロナウィルス感染症の経験を踏まえた今後のパンデミック対応について、新たな方向性が提案された。 第 25 回大会は「Social Sciences in Asia: Past, Present and Future」を統一テーマに、アジアの社会科学のこれまでを振り返り、各国の政策立案において社会科学が現在どのような役割を果たしているのか、そしてアジアの社会科学が今後どのような方向に進むべきなのか、などの点が議論された。
日本人役員によるイニシアティヴ事項や日本の参加によって進展や成果があった事例	加入国間で 2 年おきに大会主催国を回しており、主催予定国から出る会長（任期 2 年）が大会終了後に副会長となる。日本では、1993 年と 2007 年に大会が開催された。重要な事項は大会時に開催される総会（Business Meeting）で決定され、加えて年 1 回の頻度で運営執行委員会が招集される。通常業務は事務局長を中心にオンライン会議で処理されている。日本は常に country paper を出すとともに、基調講演を引きうけたり、テーマについての議論をリードしたりする有力メンバーであり、数年後には日本が大会開催地として立候補を打診されるする可能性が高い。 なお、進行中の「Asia-Pacific Social Sciences Journal Directory」プロジェクトでは、吉田文日本学術会議会員が Steering Committee のメンバー（6 名のうちの 1 名）になっている。
当該団体に加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民にとってのメリットや変化	第 25 回大会ではインド太平洋地域における社会科学の発展と展望が議論されたが、とりわけ、社会科学における USA 一極集中主義に対する対応、アカデミアにおける「科学志向」と「政策志向」の関係、「アクター基盤型研究」の限界などが重要な論点となった。これら諸点は、2021 年 4 月に日本学術会議が公表した「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」の内容と密接に関連するものであり、日本学術会議が日本国民に資する活動を進めるための示唆を与えることが強く期待される。 また AASRREC は社会科学全般に関わるため、日本学術会議第一部に関係する複数の分野別委員会とも横断的に連携する貴重な機会を提供している。これにより、日本学術会議自体の活動が活性化されてきた。社会科学関連の学会の代表者が AASSREC の活動に参加するので、各学会に及ぼす学際的な

	影響も大きい。隔年開催の大会では日本の動向に対するアジア太平洋諸国の関心が高く、第 25 回大会では、竹中千春日本学術会議連携会員が第 1 セッションで「Historical Review of Asian Studies in Japan during the Cold War and Beyond: American Social Sciences versus Marxism, Developmental States, and Challenges of Globalization」と題する報告をおこない、日本における社会科学の歴史を概観することにより、日本における研究の状況や研究成果への関心を高めた。このように、本団体への参加は、日本にとって極めて重要な意味を持つと考えられる。
その他（若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など）	AASSREC に参加している海外の代表団には若手研究者や女性研究者も多く、大会発表者として指名される場合も少なくない。本団体ではそのような研究者が従来から十分に活躍してきている（アジアは近隣なので、子育て中の研究者も含め国際会議への参加が比較的容易である）。代表として大会に正式参加できる人数は限られているが、日本の場合には、成果共有の過程で分野横断的な研究者を招いてテーマについての報告をおこない、それらを総括する会を開催している。その際、若手研究者、女性研究者の参加にとくに配慮している。 さらに、AASSREC はアジア太平洋地域の低中所得国の若手・中堅社会科学者が域内高所得国のシニア研究者からメンタリングを受けられる枠組として「AASSREC　メンター・イニシアティヴ」を開始した。本プログラムにより、域内の、とりわけ低中所得国における若手育成の進展が期待される。

２　今後の予定について（内規第 11 条　活動報告）

総会、理事会の日本開催の予定（招致等の予定も含む）	大会は、加入国が順番に主催している。日本が 2007 年に開催した後、2023 年でその後の 8 カ国目（韓国）が終了したところであり、すぐに招致するタイミングにはなっていない。ただし、情勢により緊急対応の可能性もあり、また比較的近い時期に機が熟すことから、各国の状況を遅滞なく把握しながら、日本開催を目指し積極的に準備を進めていきたい。
日本人の役員立候補等の予定	役員は大会開催とセット（次回開催国が会長、前回開催国が副会長を出す）で、立候補制ではない。第 25 回大会（韓国）で決まった役員体制（会長：インド、第 1 副会長：韓国、第 2 副会長：タイ、事務局長：オーストラリア）が、2023 年から 2025 年までの 2 年間を担当する。大会時に開催される総会は各国代表で構成されており、日本は毎回議論をリードしている。
現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動き	コロナ禍が一定程度終息したため、先述した「Boosting Social Sciences and their Contribution to Better Lives across the Indo-Pacific」プロジェクトと連接させることを重点としつつ、企画の共催などを検討していきたい。

３　国際学術団体会議開催状況（内規第 11 条　活動報告）

<table>
<tr><td rowspan="4">総会・理事会・各種委員会等の状況（過去５年間及び今後予定されているもの）</td><td>総会開催状況</td><td colspan="4">2023 年 6 月（開催地：韓国、ソウル）
2021 年（開催地：オンライン）
2019 年 9 月（開催地：ベトナム、ハノイ）</td></tr>
<tr><td>理事会・役員会等開催状況</td><td colspan="4">運営執行委員会
2023 年 6 月（開催地：韓国、ソウル）
2022 年 12 月（オンライン）
2022 年 5 月（オンライン）
2021 年 10 月（オンライン）
2021 年 3 月（オンライン）
2020 年 5 月（オンライン）
2019 年 9 月（開催地：ベトナム、ハノイ）</td></tr>
<tr><td>各種委員会開催状況</td><td colspan="4">設置されていない。</td></tr>
<tr><td>研究集会・会議等開催状況</td><td colspan="4">設置されていない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定</td><td colspan="4">2023 年第 25 回 AASSREC 大会（ソウル）、2 人（うち代表派遣：日比谷潤子、竹中千春）
2021 年第 24 回 AASSREC 大会（キャンベラ／オンライン）、2 人（うち代表派遣：日比谷潤子、山田礼子）
2019 年第 23 回 AASSREC 大会（ハノイ）、2 人（うち代表派遣：町村敬志、中野聡）</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="7">国際学術団体における日本人の役員等への就任状況（過去５年）</td><td>役職名</td><td>役職就任期間</td><td>氏名</td><td>会員、連携会員の別</td></tr>
<tr><td>「Asia-Pacific Social Sciences Journal Directory」プロジェクト Steering Committee メンバー</td><td></td><td>吉田　文</td><td>(25-26 期）会員</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>出版物</td><td colspan="5">２　不定期　*Aging in Asia-Pacific: Balancing the State and the Family* (edited by Amaryllis T. Torres and Laura L. Samson, Diliman, Quezon City, Philippines: Philippine Social Science Council).　同書は第 20 回 AASSREC 会議のプロシーディングスであるが、その後、プロシーティングスはインターネット上で随時公表されるようになった。</td></tr>
<tr><td colspan="6">活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載
http://www.aassrec.org/conferences</td></tr>
</table>

４　国際学術団体に関する基礎的事項（内規第３条、４条、５条）

<table>
<tr><td rowspan="3">国内委員会（内規４条第３号）</td><td>委員会名</td><td>第一部国際協力分科会</td></tr>
<tr><td>委員長名</td><td>小田中直樹</td></tr>
<tr><td>当期の活動状況</td><td>（開催日時　主な審議事項等）
2024 年 6 月 27 日　第 26 期第１回
役員の選出、第 26 期の活動方針、その他</td></tr>
<tr><td rowspan="6">内規第３（国際学術団体の要件関係）</td><td colspan="2">国際学術交流を目的とする非政府的かつ非営利的団体である

①　該当する　　２．該当しない

※根拠となる定款・規程等の添付又は URL を記載
https://aassrec.org/about-us-constitution/</td></tr>
<tr><td colspan="2">各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して加入するものが、主たる構成員となっている（主たる構成員が、いわゆる「国家会員」であるか否か）

①　該当する　　２．該当しない

※根拠となる資料の添付又は URL を記載
https://aassrec.org/about-us-constitution/</td></tr>
<tr><td colspan="2">下記の事項（ア～エ）のいずれか一つに該当するか（該当するものに〇印）
ア　個々の学術の専門分野における統一的かつ世界的な組織を有するもの

イ　研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、統一的かつ世界的な組織を有するもの

ウ　研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合した世界的組織を有するもの

エ　構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるものであって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの</td></tr>
<tr><td colspan="2">10 ヵ国を超える各国代表会員が加入している
①　該当する　　２．該当しない</td></tr>
<tr><td rowspan="2">加入国数及び主要な各国代表会員を 10 記載</td><td>13 ヶ国　１地域（準会員）</td></tr>
<tr><td>・各国代表会員名／国名
Science Council of Japan (SCJ)／日本
Chinese Academy of Social Sciences (CASS)／中国
The Korean Social Science Research Council (KOSSREC)／韓国
Academy of the Social Sciences in Australia (ASSA)
／オーストラリア
Royal Society Te Aparangi／ニュージーランド
National Research Council of Thailand (NRCT)／タイ
Vietnam Academy of Social Sciences (VASS)／ベトナム
Philippine Social Science Council (PSSC)／フィリピン
Indian Council of Social Science Research／インド</td></tr>
</table>

（参考）
国内関係学協会（主要１０団体）
日本政治学会、日本移民学会、日本経営学会、日本経済学会連合、日本経済学会、
日本公共政策学会、日本歴史学協会、アジア政経学会、オーストラリア学会、
ジェンダー法学会